

令和2年度 上田市立清明小学校 自己評価シート(総合報告)

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価					
「清く明るく 豊かな心で 進んで学ぶ 子どもの 育成」 ・心も体もたくましい 子ども ・自分や友だちだちを大 切にできる子ども ・自ら学ぶ子ども	①自主:豊かなかかわりやさまざまな体験を通して、自分で気づき、よく考えて自らたくましく行動できる子ども ②豊かさ:お互いに認め合う中で自分に自信を持ち、友だちとのかかわり合いを大切に、共に学習や生活を楽しむことができる子ども ③学び:自ら見つけた課題を、友だちと考えをつなぎながらめ合いながら追究し、学びの楽しさや高まりを実感できる子ども		・コロナ禍においても時期や内容を考えて行事を設定し、それに向けて目的意識をもった集団活動を仕組む中で、子ども達が自分で進めていくことを経験して、自分で考えることや友だちと相談することの楽しさや良さを感じている姿が見られました。 ・友だちが活動する姿を見て「やってみたい」という気持ちをもって取り組んだり、友だちのよいところをまねたりするなど、認め合う子ども達の姿が多く見られ、自分と違うと感じる友だちへの見方も肯定的になってきています。 ・知的好奇心のあふれる子ども達なので学習課題の設定を工夫しました。ふるさと学習(総合・生活科)においても安全に配慮し、可能な限り学びのフィールドを広げ、今後も子ども達に自由度をもたせた取組の充実を図っていきます。						
	今年度の重点目標		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
	1	一人ひとりがより大切にされる学級・学校(自主・豊かさ)	子どもの声に耳を傾けながら、互いに責任を果たし喜びを共有できるようにする中で、支え合う学習集団に成長しているように思います。		○			今後も、子ども達の良いところを伸ばし、広げる支援をする上で、さらに子ども達の頑張りを認める評価の工夫と安心して過ごせる環境づくりに全校体制で取り組みます。	
2	「学びの主体者」としての子どもを育てる(学び)	興味をもてる教材で友だちと共に考え、動く活動を行うことにより、主体的に学び、多様に表現する子どもが増えてきたように思います。	○				今後も協働して学ぶことを通して、他者と折り合いをつけていく力、自己を見返す力、自分で適切に判断し決めていく力を伸ばす支援に努めます。		
対象	評価項目	評価の観点		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
重点目標	1 自主・豊かさ	成功経験の累積	困難にぶつかったとき、仲間とともに解決していかれる適切な支援を繰り返しながら、乗り越える成功経験を積ませたか。	・コロナ禍にあっても行事や学級・学年活動で子ども達が計画、実行、見直しを経験することにより自信や達成感を得る活動ができました。	○				子ども達が小さな成功体験の積み重ねを経験していく機会をさらに設けて、達成感や充実感を自覚できるよう、努めていきます。
		挨拶の充実	日常的な声がけや、児童会活動の充実により、挨拶の良さを自覚させながら、実践と評価を繰り返し、積極的に挨拶が飛び交う学校を目指したか。	始業や朝の挨拶は定着しているものの、自ら進んで挨拶する姿には個人差が見られます。日常的な指導の工夫に努めます。		○			今後も職員自ら率先して挨拶するとともに、授業や児童会活動を通して、挨拶の良さを知ったり、実感したりする機会を積極的に設けていきます。
		人権同和教育の日常化	一人一人を大切に、違いを認め合い、共に学びあうよさが実感できる人権同和教育を日常化したか。	友だちのよいところに目が向いたり、互いの差異を認め合い、よりよい関係を築こうとしたりする子どもの姿が多く見られました。		○			自他を大切にする学びや活動を継続し、差別やいじめについても自分事としてとらえて考え合い、相手意識を高め、安心して自己表現できる関係作りを力を入れていきます。
		思いやりの心の育成	児童を肯定的に捉え、温かい言動で接しながら、思いやりの心が全体に広がるように取り組めたか。	友だちのよい面や友だちにしてもらって嬉しかったことを伝え合うなど、自分も友だちも肯定的に捉えようとする子どもが多いです。	○				今後も心が通い合う活動を基軸に、温かい行為や優しい言葉を習慣化していくため、相手の立場や気持ち、相手の目に映る自分を想像できるよう児童支援に当たります。
		研修を生かした実践	特別支援教育の研修や、児童理解の研修を全職員で積み重ね、研修を生かした実践に取り組めたか。	月一回の児童理解の研修や授業研究などで学んだことを子ども達の実態に照らして、児童支援や授業に活かすことができました。	○				各種多様な支援について学べる研修を年間計画に位置づけ、今後も専門性を高めていきます。また、個々の職員の専門性を生かした研修にも取り組みます。
	2 学び	「ふるさと学習」の推進	「ふるさと学習」を通して、探究する楽しさを体験させながら、粘り強く追究する意識を育て、やり遂げた成果に自信を持たせたか。	コロナ禍にあっても課題を見つけ、調べまどめる取り組みができました。さらに、年間を通して計画的に進められるよう工夫します。		○			子ども達が願いや問いをもち、連続的に探究していく地域と連携した総合的な学習の時間や、生活科の学びがしやすい環境をさらに創造していきます。
		児童会活動、係活動、朝マラソン、靴揃えなどへの取り組み	・自分から進んで、児童会活動や係活動、朝マラソンや靴揃えに取り組めるよう工夫して指導することができたか。	コロナ禍にあっても児童会の取組が遅れがちになった面もある中、各種週間の取組や係活動、靴揃えなど徹底を図ることができました。		○			伝統を大切にしながらも、新しい発想を取り入れて、児童会を中心に全校で学校をよりよくしているという意識を高めていきたいと考えています。
		学習習慣の形成	腰骨を立て、目・耳・心で話を聴き合う、学習習慣と姿勢づくりを進めることができたか。	集中した学びや友だちと学び合い考えを深める姿が多く見られました。学習姿勢については個人差が大きいので日常指導を工夫します。		○			集中力と学習姿勢の保持に向けて、めりはりのある授業の流れを仕組んでいきます。また、多様な学習形態を工夫し子ども達が五感を使って学べるように努めます。
		学習課題の共有	学習課題を共有し、課題解決に向けて、友だちの考えを聴き自分の考えが伝わるように話す場面を授業の中に設定したか。	自分の考えを様々な形で表現したり、友だちの考えを取り込んで新たに自分の考えを見いだしたりする子どもが増えていきます。	○				引き続き、学び合い活動の中で、自分の考えを広げたり、新たな見方を発見したりして、その学びの楽しさや必要感を子ども達がもてるように努めていきます。
		話し合い活動の充実	ペア学習や小グループによるテーマ追究の話し合い活動を設け、共に学ぶ楽しさに触れさせながら、ともに考えを練り上げ、高める力を育むことを通して、学力向上に努めたか。	コロナ禍においても、安全を確保してペアや小グループによる追究場面を設けることで、問題解決にむけて意欲的に取り組む子どもが増えていきます。	○				子どもの中から生まれた問いを解決するため予想を出し合い、追究方法を見つけ出し、個人や共同で追究し、多様な考えを取り込みながらまとめていく授業をこれからも継続していきます。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった